救世論文３

再掲出

# 人類が何千年も見続ける
# 悪夢を考察する

現人類ホモサピエンスは、今から二十万年ほど前に、それまでの他の生き物とは別格の、特別恵まれた「神仏の分身」として、この星地球に出現した。

**ところが今から約一万年前、それまで穏やかだった自然環境が突然激変し、未曾有の食糧危機に見舞われたのだ。**

その実際はこうだ。今から約一万一千年前に最終氷河期が終わり、気温が少しずつ上昇し続けた。それが、ほぼ一万年前に突然一気に急下降して、元の氷河期のそれに逆戻りしてしまったのだ。

その理由はこうだ。一千年も続いた気温上昇で氷河が徐々に溶けて、今の北米大陸北部一帯に巨大な天然ダム湖が出現した。現五大湖はその名残である。

**それが今から約一万年前、突然大決壊し、膨大量の冷淡水が一気に大西洋へ流れ込んだ。淡水は海水より軽いので、その冷淡水が広く大西洋全域を覆うことになった。その結果、地球規模の異常気象が頻発し、気温が急下降したのだ。**

ちなみにこれは、ＮＨＫのテレビ番組『グリーンランド氷河のボーリング調査の結果を基に農業のルーツを探る』の解説をそのまま引用したものである。

以上を前置きにして本題に入る。人類初の大規模人為「農業」が、この時、世界中で一斉に始まったのである。

ただし、農業の開始自体が「悪夢」の見始めになった訳では決してない。それどころか「農業」は、人類に天与された最高の授かり物であったのだ。

**それが一体なぜ「悪夢」と化し、現在にまでも続いてきているのか。その考察こそが本論文の主題なのである。**

我々人間には、先天的に色々な個性がある。当然「農業」にも上手下手があったのだ。しかし個性は、様々な分野に分散されており、全体ではきちんと調和が取れていたのだ。人間に個性を持たせたのは、神仏の粋な計らいなのである。

そういう訳で、初めは実にうまくいっていたのだ。上手も下手もなく「大地の恵みは皆で仲よく分かち合おう」「豊作の年は不作の年に備えて皆で大切に貯蔵しておこう」だったのである。

**しかしやがて、上手な方の人心に魔が差し始めたのだ。「自分だけ」と考える不自然な利己心の芽生えである。この利己心が、もっともっとと富や名声を追求し続け、今では八十億全人類が「悪夢」の虜になってしまっているのである。**

次に、そんな「悪夢」をなぜ何千年も見続けてきたのかを考察する。その原因は、文字の発明にあったのだ。

人類の豊かな言語は、喜びや幸せを互いに交歓し合えるようにと、人類だけに特別に天与されたものである。対して文字は、社会的強者が極近年、利己的情報を時空を越えて遠隔伝達するために、恣意的に考え出したものなのである。

**そして今や、０と１二文字だけで「悪夢」を無限拡大する人工知能が、人類を滅亡へと引きずり込みつつあるのだ。**

最後に、古代以前の日本が文字を持たなかったのは、利己心を否定し「和」を重んじた、国祖アマテラスの遺訓のお陰だったのだ。**徳仁よ！肝に銘ずべし！**

※令和四年晩秋

覚者播磨屋助次郎　神託急告

※　弊社ホームページに公開した日付です。